

第3章 中南部都市圏が目指す将来像

2章で行った「現在の中南部都市圏が抱える都市交通の問題・課題」に関する分析結果を受け、本章では、中南部都市圏構造を構築する上での課題を整理し、さらに中南部都市圏に関する上位計画・関連計画を踏まえて、将来の都市圏構造に関する検討を行い、中南部都市圏が目指す将来像を示す。

3-1 将来の都市圏構造とフレーム

3-1-1 将来の都市圏構造

■都市圏構造を構築する上での課題

- ①環境、安全といった生活の基本を守ることを大切にしながら、都市圏の土地利用を計画的に進めること
- ②自立経済の構築の観点からも、多様な交流拠点整備や経済的な支援政策等を通して、都市圏における経済産業構造を持続的に強化すること
- ③基地跡地利用についても、優れた環境づくりを基本に、既存市街地との連携や新たな街づくり、県土の振興の観点も踏まえ、戦略的に推進すること
- ④那覇市、沖縄市などの都心部や新たな拠点地域は、地域が独自に有する文化資源などを活かしながら、都市圏全体の発展を牽引しつつ、人が賑わう魅力ある街づくりを推進すること
- ⑤住民の日常生活や都市活動を支える交通サービスは、都市の軸や様々な圏域内で活力、安全、快適さを生み出すよう、総合的な質の向上を図ること



■都市圏がめざす将来像

- 多様性のある歴史・文化が後世に大切に引き継がれ、地球環境の保全にも貢献しつつ、亜熱帯・島嶼といった特色をもった豊かな自然環境と共生しながら、持続的発展が実現される都市圏
- アジア・太平洋地域における国際交流を導き、沖縄の戦略的な経済振興と自立性を先導する都市圏
- 高齢者から子どもたちまで、皆が地域の誇りと愛着を深め、協働しながら沖縄の風土に根ざした安心・快適な暮らしが実現される都市圏



注) ここで言う環境とは、「自然環境」「生活環境」「文化環境」から「地球環境」までを含める。

■都市圏構造の基本方向

- 1) 那覇市と沖縄市を中心とした2つの都市圏域、複数の生活圏域、その背骨となる都市圏軸からなる都市圏構造を基本とし、振興のための条件となる広域交流拠点（空港・港湾等）、圏域外との結節の強化を図る
- 2) 広域交流拠点や基地跡地利用拠点などは、振興の拠点としてふさわしい機能導入を図り、都市圏軸と連携した構造体により都市圏全体の成長と発展を見込む
- 3) 都市圏軸は質の高い交通ネットワークを構築し、各圏域内のモビリティ（移動性）は、地域の特性や住民のニーズを踏まえ、必要なサービスが確保されるものとし、「安全」、「安心」、「快適」な住民の生活を支える

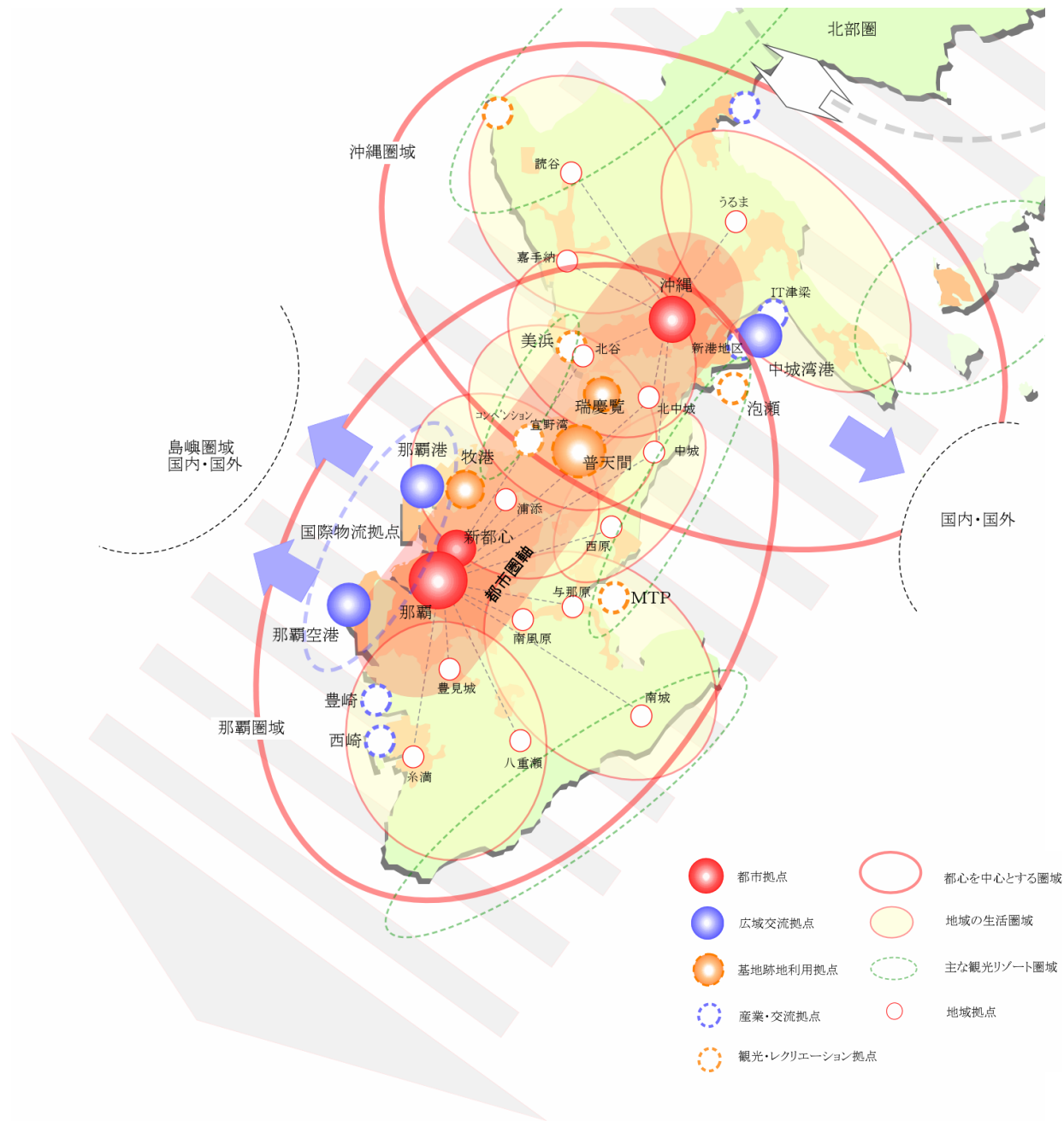


図 3-1 都市圏構造の方向性（圏域構造）

3-1-2 将来の人口フレーム

中南部都市圏における将来の人口フレームは、夜間人口フレームで現況の平成 17 年度における 1,113 千人に対して平成 42 年度は 1,181 千人となり、現況比約 6.1%増加となった。

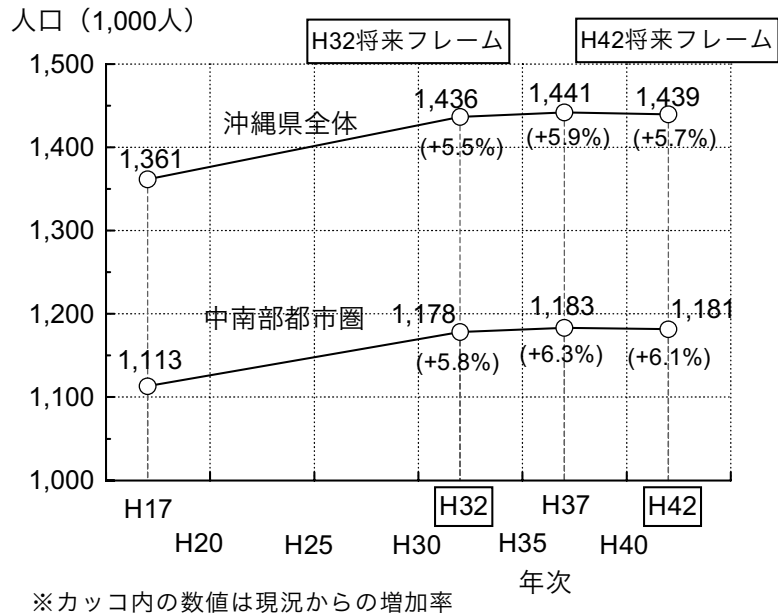


図 3-2 都市圏の将来フレーム推計値

平成 42 年度は就業人口・従業人口ともに増加するが、学生人口は現況の約 21 万人から約 19 万人へと約 12%減少となった。

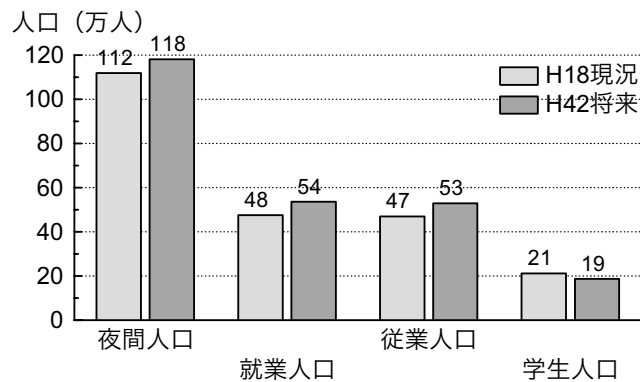


図 3-3 就業人口／従業人口／学生人口の推移

3-2 地域別の都市整備の方向性

中南部都市圏の都市整備の基本方針として、都市圏構造の基本方向、各種都市整備動向や計画動向等を踏まえ次のような方針を掲げる。

都市整備の基本方針

- 都市圏の国際交流機能、自立的な産業振興機能を先導するために、海外・国内との広域交流機能を担う拠点、高次な商業業務機能を担う都市拠点、基地跡地等における戦略的な産業機能を担う拠点等の多様な拠点地域を有機的に連携できるような圏内各所に配置・整備する。
- 自然環境との共生、持続可能な発展をめざすため、都市圏内の貴重な緑地・美しい海浜・農地などの自然系土地利用は保全しながら、調和のとれた整備を行う。
- 都市圏軸上では、基地跡地利用拠点や周辺市街地での適正な土地利用の誘導整備を含め、環境負荷の少ない集約型市街地を交通施設と一体的に整備し、都市的土地利用の分散的拡大を抑える。
- 都市圏軸上の市街地、その周辺市街地、郊外部農住地域などそれぞれの地域では、特有の資源を活用した街並み形成や、各生活圏における安全で快適な生活を支えるために必要な都市基盤整備、交通基盤整備を進める。

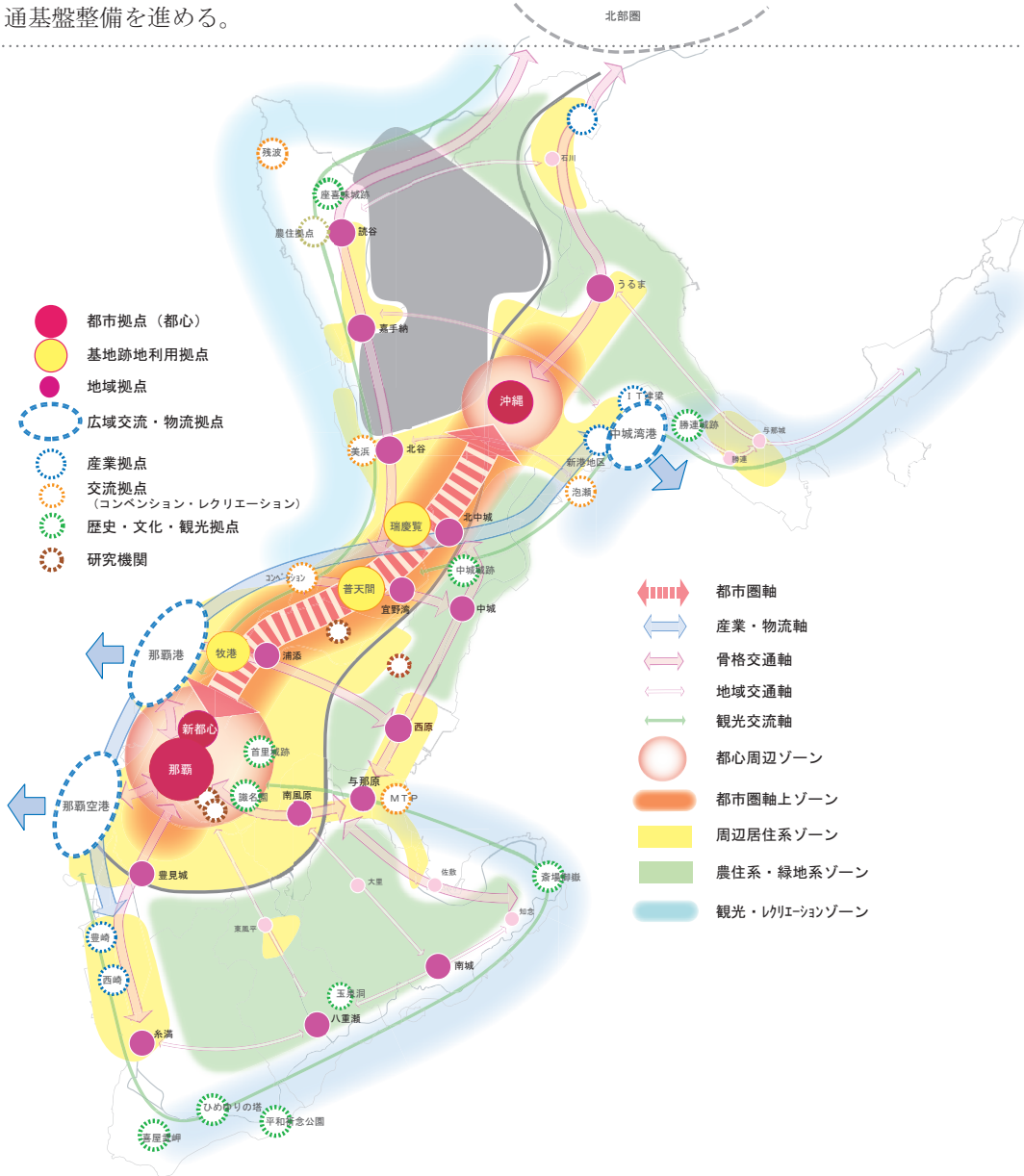


図 3-4 地域別都市整備の方向